

# 『至誠通天』



山口朝日放送株式会社

常務取締役

おかだ のぶゆき

岡田 伸之

山口商工会議所 3 号議員・常議員

1952年生まれ。東京都日本橋出身。大学卒業までを東京で過ごし、卒業後は朝日新聞社に入社。金沢市、岡山市などで勤務し、社会部の遊軍記者や、警視庁キャップとして様々な事件の報道に携わる。山口市に住んで5年目で、単身赴任中。趣味は読書とジャズ鑑賞、お酒を飲むこと。

【企業概要】

山口朝日放送(株)

住 所：山口市中央 3 - 5 - 25

TEL：083-933-1111

設 立：1992年11月

従業員数：88名

## 岡田常務はどのような事を担当されているのでしょうか？

現在は、山口朝日放送(株)常務取締役として、編成業務を担当しています。主に「番組を編成し、視聴率や売上を上げるにはどうしたら良いか」ということを考え、報道制作局とともに番組づくりを進める部署です。視聴率は、番組に対する評価であると同時に商業的の価値を決めるバロメーターです。いわば、放送局の司令塔のような仕事だと思えます。

記者として、現役時代には、鉛筆1本で社会に訴える仕事をしていました。新聞という活字媒体は、映像では伝えられないものを伝えることができる、見えない部分で訴えることができます。しかし、「映像で伝える」というのは、活字で伝えるよりも、視聴者のみなさんに大きなインパクトを与えることができ、映像でなければ伝えられないこともあります。活字と映像では、分野が全く違う

のですが、現在は、よりよい番組づくりができるよう、日々挑戦しています。

## 社屋を増築されたことについて教えてください。

増築が完了し、12月18日にオープンしたばかりです。オフィスが手狭になってきたことと、新しい放送設備を導入するためというのが目的でしたが、今回の目玉は「オープンスタジオ」でしょう。



土曜あさ7時～「どき生てれび」のスタジオセット

放送局は、放送を途絶えさせてはいけないという使命と、不審者が侵入して

はいけないというセキュリティ上の理由から、外部との出入りには慎重になり、スタジオは閉鎖的な空間になりがちです。オープンスタジオは、名前の通り大きな窓に囲まれ、施設的にも開かれているのはもちろんですが、地域の方々に開かれた場所として、地域に貢献したいという思いを込めて設置しました。

一般の方が参加できる場所、見学できる場所として、交流できるスペースになっています。

また、新社屋の外壁にはデジタルサイネージを設置し、地域の方や子どもたちへのメッセージを流すなど、地域



デジタルサイネージ



年末の取材だったので、翌日に放送される生放送番組のセットが設置されていました

の方々に溶け込み、親しまれる施設になればと考えています。

### 山口市に赴任されるまでのことを教えてください。

私は東京日本橋の下町生まれで、大学を卒業するまで、東京で過ごしました。大学は早稲田大学第一文学部で、西洋哲学について学びました。もともと、頭の中で物事を思考することが好きでした。

卒業後は、1978年4月に朝日新聞社に入社し、3年間は石川県金沢総局に勤務しました。その後は、岡山に3年勤務し、大阪本社の社会部、東京本社の社会部を経て、警視庁の報道キャップ、千葉県の総局長に就任しました。社会部は、地道に調査をして報道することが仕事です。まだ世間に出ていない話

や、世の中を動かす記事を書くことを目指して取材を行いますので、政治家の汚職を暴くなど、大きなニュースを報道することも多い部署です。私が記者をしていた頃、グリコ森永事件、リクルート事件、オウム真理教事件など様々な事件を取り扱ううちに、入社当初は紅顔の美少年だったはずが、いつのまにか人相も悪くなり、ジャーナリストとしてプロの顔になってしまいました(笑)。

社会部は、「天皇陛下からアウトローまで」と言われる部署です。政治部や経済部が、部専門の事件を取り扱うのに対し、社会部は、どんな分野の事件でも取り扱い、様々な人々に会い、話を聞くことも多い部署です。社会部に配属されて感じたのは、「どんな事柄

にも正義感と疑問を持って対峙すること」。常に世の中の不正に対して疑問を持たなければ、探求心も生まれません。その疑問を探求する事が、ニュースにつながるのだと思います。

その後は、広報部長、財務本部長補佐などを勤めた後、現場から離れました。系列である(株)朝日ビルディングに役員として出向し、中之島フェスティバルタワーの建設などに携わりました。その後、山口朝日放送(株)の役員として、山口市に赴任しました。現在家族は東京で暮らしているのですが、ずっと単身赴任です。

### 山口市で暮らした印象はいかがでしょうか。

山口は、「豊かなまち」という印象です。災害も少ない、海の幸や山の幸も



豊富で、あくせくする人も少なく、ハングリな印象はほとんどありません。

県庁所在地の最寄り駅であるにも関わらず、単線でディーゼル車、駅前もガラんと道があるだけ…と、最初に山口駅に降り立った時には、寂しさを感じたものです。

しかし、ここは明治維新策源地。私が常に持ち歩いている手帳には、自分を奮い立たせる多くの言葉を書き連ねていますが、その中でも、吉田松陰の「至誠通天」という言葉は、特に大切にしています。商売で利益をあげることやお金を得ることよりも、政治について論じる方が多いという印象もあります。

私が一番強く感じているのは、「優秀な人材を輩出するまち」という印象

でしょうか。中央政財界の大物が多く輩出されています。山口では、「中央へ、世界へ!」という意識が強いのだと思います。中央や世界で活躍している長州人の方々が、もっと地元を盛り上げるべく、手をさしのべ、地元を大切にしてくださいることも必要ではないかと感じています。

また、おもしろいと思うのが、私のように県外から来た者は、「山口では～」と話し始めると、山口県全体の事をさして話しているのですが、県民の方々にとっては「山口」と言うと「山口市」の事を指しているように受け取られること。「県全体で」という意識が薄いというのか、元々周防国と長門国に分かれていた歴史があるためか、一体感が薄いですね。また、県庁所在地である山口市の存在感が、他の地域に比べる

と弱いように感じます。山口は、こんなにおもしろい地域なのに、もったいない。もっともっと山口市が他の地域を引っ張っていくくらいの勢いを持って、県全体を牽引していく存在になって欲しいと思います。

### 今後のオススメ情報などを教えてください。

新設したオープンスタジオを活用して、視聴者参加型の番組の制作を考えています。

地域の方々からも、更に愛される放送局になるため、今後もよりよい番組を制作できるよう、努力を続けたいと考えています。皆様も、是非オープンスタジオにお越しください。



増築された社屋。  
左下に見えるのがオープンスタジオの入口